



図2. 生息地の環境。

る。水際の傾斜は緩やかで、湿地状の岸边にはモウセンゴケが生育し、浅瀬にはイ(イグサ)が群落を形成している。また、開放水面には広くジュンサイが生育している(図2)。

本種はイ群落の根際を攪拌しデトリタスごとと掬いあげることによって得られた。同所では同属のオオマルケシゲンゴロウ *H. bonvouloiri* Sharp, 1882, マルケシゲンゴロウ *H. subtilis* Sharp, 1882 のほか、キボシチビコツブゲンゴロウ *Neohydrocoptus bivittis* (Motschulsky, 1859), ムモンチビコツブゲンゴロウ *Neohydrocoptus* sp., ルイスツブゲンゴロウ *Laccophilus lewisius* Sharp, 1873 などの全国的にも希少なゲンゴロウ類が複数確認された。この採集状況は、出現種はやや異なるものの、森・北山(2007)の「丘陵地の大きな池の浅瀬で植物の豊富な水域から、多くのマルケシゲンゴロウやコマルケシゲンゴロウ、ムツボシツヤコツブゲンゴロウなどの小型種と共に得られ」という記述に符合している。山口県内には植物群落の発達する溜池が未だ比較的多く残っているものの、現在本種が確認されているのは今回調査した溜池のみである。全国的にも貴重な記録と考えられるため、本種の継続した生息状況調査と、新たな生息地の発見に努めたいと考えている。

最後に、本種の同定にご協力いただいた石川県ふれあい昆虫館の渡部晃平氏、水生植物についてご教示いただいた株式会社ソラトリの佐伯伸正氏、貴重な文献を提供していただいた熊本県博物館ネットワークセンターの中園洋行氏、文献の収集及び報文作成の助言をしていただいた環境科学大阪株式会社の森正人氏に厚くお礼を申し上げる。

引用文献

秋田勝己, 2008. 志摩市大王町船越池のゲンゴロウ類と捕食性

- 外来動物について. 甲虫ニュース, (162): 31-34.
 石田和男・矢崎充彦, 2005. 大王町船越池の水生半翅類, 水生甲虫類. ひらくら, 49 (2): 17-24.
 Kitayama, A., M. Mori, & E. Matsushi, 1993. A new species of *Hydrovatus* (Coleoptera: Dytiscidae) from Japan. AKITU, (137): 1-4.
 北野 忠・唐真盛人・水谷 晃・崎原 健・河野裕美, 2011. 西表島研究 2010, 西表島におけるゲンゴロウ類の生息状況. 東海大学沖縄地域研究センター所報, 37-43.
 的場 績, 2010. 和歌山県産甲虫類分布資料 23. KINOKUNI, (78): 24.
 森 正人・北山 昭, 2001. 深泥池の水生肉食垂目 *Hydradephaga*. ねじればね, (96): 1-9.
 森 正人・北山 昭, 2007. 改訂版図説日本のゲンゴロウ. 231 pp. 文一総合出版.
 森 正人, 2017. ヤギマルケシゲンゴロウ. 大切にしたい奈良県の野生動物植物 - 奈良県版レッドデータブック 2016 改訂版 -. p. 225. 奈良県.
 中島 淳・井上大輔, 2012. 福岡県におけるヤギマルケシゲンゴロウの採集記録. ホシザキグリーン財団研究報告, (15): 182.
 坂本 充, 2012. ヤギマルケシゲンゴロウ. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第3版) - レッドデータブックひろしま 2011-. p. 142. 広島県.
 静岡県, 2005. 静岡県野生生物目録 - 昆虫類 -. 112pp.

(相本篤志 747-0806 防府市石が口3-10-10-2-B202)

【短報】マメアサガオ白さび病菌菌癭よりアカアシヒゲナガゾウムシが羽化脱出

ヒゲナガゾウムシ科 Anthribidae の多くは腐朽の進んだ枯木やキノコ類に発生するが、ワタミヒゲナガゾウムシ属 *Araecerus* だけは種子や乾燥植物を摂食することが知られている(森本・沢田, 1998). アカアシヒゲナガゾウムシ *Araecerus trasalis* Sharp, 1891 は幼虫期にサイカチ *Gleditsia japonica* の成熟した種子内にて内部を摂食し、羽化することが報告されている(Takakura & Yamazaki, 2004) が、他のホストについての報告はない。筆者は神奈川県藤沢市においてマメアサガオ *Ipomoea lacunosa* の茎部に形成された菌癭より本種成虫が脱出する事例を確認したので報告する。

2019年2月1日、神奈川県藤沢市亀井野日本大学構内に群生していたマメアサガオに直径約20mmの瘤が1つ形成されているのを発見し、採集した(図1)。同月4日にも直径約10mmと5mmのものを採集し、それぞれプラスチック容器に入れ、25°C, LD 12:12の一定条件に保管した。瘤はいずれも乾燥していたため、保水などは行わなかった。

直径20mmの瘤について、一部を切断したところ、内部より甲虫の幼虫が得られた。その形状よりヒゲナガゾウムシ科の昆虫と推察され、そのまま瘤上に安置したが、再度内部に潜入することは



図1. アカアシヒゲナガゾウムシが羽化脱出したマメアサガオ白さび病菌の菌瘻(直径20 mm).

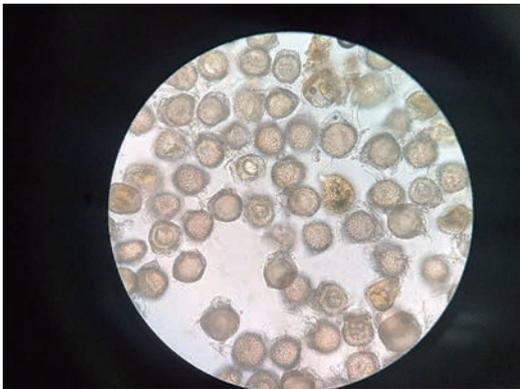


図2. マメアサガオ白さび病菌の生卵器(出川洋介氏同定).

なく、数日後に死亡した。

切断した瘤から黄褐色の粉末が得られたため、生理食塩水を滴下したプレパラートを作成し生物顕微鏡にて観察したところ、多くの微細な球状物(図2)が確認された。後にこれは出川洋介氏(筑波大学山岳科学センター)により *Albugo* 属の生卵器であると同定され、ホストや発生の状況からマメアサガオ白さび病菌 *Albugo ipomoeae-panduratae* (Schweinitz) Swingle f. sp. *lacunosae* Toy. Sato & Y. Degawa (Sato *et al.*, 2009) により形成された菌瘻であることが分かった。

その後も観察を続けていたところ、同月23日から26日にかけて20 mmの菌瘻より大量のフラスとともにヒゲナガゾウムシ科の成虫が19頭脱出した。また、同年3月14日から15日にかけて、10 mmの菌瘻より同じ成虫が3頭脱出した。この成虫は妹尾俊男氏によりアカアシヒゲナガゾウムシと同定された。

成虫と菌瘻片を同容器に入れて飼育したところ、摂食していると思われる様子が観察されたが、ど

の個体も約1ヶ月で死亡した。

本種がどのように菌瘻に潜入したかは不明であるが、温暖条件下において羽化脱出したことから、発育に不適な冬季になる前に菌瘻に産卵し、越冬しているものと考えられる。

本種が菌をどのように利用し、分散に関与しているかについて、今後も調査を続けたい。

末筆ではあるが、ヒゲナガゾウムシの同定、菌瘻の同定、および執筆への協力を賜った岩田隆太郎氏(日本大学生物資源科学部)、妹尾俊男氏、出川洋介氏(筑波大学山岳科学センター)、佐藤豊三氏(新潟食料農業大学)、太田祐子氏(日本大学生物資源科学部)に感謝申し上げます。

引用文献

- 森本 桂・沢田佳久, 1998. ゾウムシ上科, 石井 実・大谷 剛・常喜 豊(編). 日本動物大百科第10巻 昆虫 III. 151-154.
- Sato, T., Okamoto, J., Degawa, Y., Matsunari, S., Takahashi, K. & Tomioka, K. 2009. White rust of *Ipomoea* caused by *Albugo ipomoeae-panduratae* and *A. ipomoeae-hardwickii* and their host specificity. *Journal of General Plant Pathology*, (75) : 46-51.
- Takakura, K. & Yamazaki, K. 2004. *Araecerus tarsalis* (Sharp) (Coleoptera, Anthribidae) as a seed predator. *Elytra*, 32 (1) : 138.

(野間健吾 252-0880 藤沢市亀井野 1866

日本大学生物資源科学部 生物学研究室)

【短報】石川県におけるコウチュウ目6種の初記録

筆者らは、石川県初記録となるコウチュウ目6種を採集したので報告する。セスジムシ *Omoglymmius crassiusculus* (Lewis, 1888) を除いた5種は、ブナの倒木および立ち枯れでスプレー法または目視により採集したもの、セスジムシは朽ちた倒木の樹皮下から採集したものである。同定は佐藤(1985)、大原(1996)および平野(2009; 2010)を参考にした。

報告に先立ち、セスジムシ科の同定についてご教示いただいた愛媛大学農学部環境昆虫学研究室の吉田一樹氏、一部の採集にご同行いただいた石川県ふれあい昆虫館の須田将崇氏に心よりお礼申し上げます。

セスジムシ科 Rhyssodidae

ホソセスジムシ *Yamatosa niponensis* (Lewis, 1888)

1 ex., 白山市桑島 大嵐山, 4. VI. 2018, 渡部採集; 1 ex., 同地, 4. VI. 2018, 福富採集(図1); 1 ex., 同地, 17. VII. 2019, 渡部採集; 1 ex., 同地, 17. VII. 2019,